

大学等名	上武大学
プログラム名	上武大学応用基礎プログラム(ビジネス情報学部)
適用モデルカリキュラム	改定前モデルカリキュラム(2021年3月29日制定)

応用基礎レベルのプログラムを構成する授業科目について

① 申請単位 ② 既認定プログラムとの関係

③ 教育プログラムの修了要件

④ 対象となる学部・学科名称

⑤ 修了要件
 プログラムを構成する必須科目群の単位をすべて修得すること。
 必須科目群
 「情報社会とコンピュータ」(2単位)「プログラム言語C」(2単位)「プログラム言語D」(2単位)

必要最低科目数・単位数 科目 単位 履修必須の有無

⑥ 応用基礎コア「Ⅰ. データ表現とアルゴリズム」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-6	1-7	2-2	2-7	授業科目	単位数	必須	1-6	1-7	2-2	2-7
情報社会とコンピュータ	2	○	○		○								
プログラム言語C	2	○		○	○	○							
プログラム言語D	2	○		○	○	○							

⑦ 応用基礎コア「Ⅱ. AI・データサイエンス基礎」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	3-4	3-9	授業科目	単位数	必須	1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	3-4	3-9	
情報社会とコンピュータ	2	○	○	○	○	○	○	○	○													
プログラム言語D	2	○								○												

⑧ 応用基礎コア「Ⅲ. AI・データサイエンス実践」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	授業科目	単位数	必須
プログラム言語D	2	○			

⑨ 選択項目・その他の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) データサイエンスとして、統計学を始め様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎(統計数理、線形代数、微積分)」に加え、AIを実現するための手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」の概念や知識の習得を目指す。	1-6	<ul style="list-style-type: none"> ・代表値(平均値、中央値、最頻値)、分散、標準偏差 『情報社会とコンピュータ』(第12回・第13回) ・相関係数、相関関係と因果関係 『情報社会とコンピュータ』(第13回) ・名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度 『情報社会とコンピュータ』(第12回)
	1-7	<ul style="list-style-type: none"> ・アルゴリズムの表現(フローチャート) 『プログラム言語C』(第2回) ・並び替え(ソート) 『プログラム言語C』(第14回)(第15回) ・探索(サーチ) 『プログラム言語C』(第12回)(第13回) ・ソートアルゴリズム、バブルソート、選択ソート 『プログラム言語C』(第15回) ・探索アルゴリズム、リスト探索 『プログラム言語C』(第12回)、木探索 『プログラム言語C』(第13回)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータで扱うデータ(数値、文章、画像、音声、動画など) 『情報社会とコンピュータ』(第1回)、『プログラム言語C』(第3回)、『プログラム言語D』(第2回) ・構造化データ、非構造化データ 『情報社会とコンピュータ』(第1回) ・情報量の単位(ビット、バイト)、二進数、文字コード 『情報社会とコンピュータ』(第1回) ・配列 『プログラム言語C』(第4回)、『プログラム言語D』(第5回)
	2-7	<ul style="list-style-type: none"> ・文字型、整数型、浮動小数点型 『プログラム言語C』(第3回)、『プログラム言語D』(第2回) ・変数、代入、四則演算、論理演算 『プログラム言語C』(第3回)、『プログラム言語D』(第2回) ・関数、引数、戻り値 『プログラム言語C』(第10回)(第11回)、『プログラム言語D』(第4回) ・順次、分岐、反復の構造を持つプログラムの作成 『プログラム言語C』(第5回)(第6回)(第7回)(第8回)(第9回)、『プログラム言語D』(第3回)
(2) AIの歴史から多岐に渡る技術種類や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にAIを活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得するAI基礎的なものに加え、「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」、及び「深層学習の基礎と展望」から構成される。	1-1	<ul style="list-style-type: none"> ・データ駆動型社会、Society5.0 『情報社会とコンピュータ』(第3回) ・データサイエンス活用事例(知識発見、判断支援) 『情報社会とコンピュータ』(第3回) ・データを活用した新しいビジネスモデル 『情報社会とコンピュータ』(第3回)(第8回)(第9回)
	1-2	<ul style="list-style-type: none"> ・データ分析の進め方 『情報社会とコンピュータ』(第5回) ・様々なデータ分析手法(回帰、分類、クラスタリングなど) 『情報社会とコンピュータ』(第7回) ・様々なデータ可視化手法(比較、構成、分布、変化など) 『情報社会とコンピュータ』(第10回)(第12回)(第13回) ・データの収集、加工、分割/統治 『情報社会とコンピュータ』(第5回)
	2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT(情報通信技術)の進展、ビッグデータ 『情報社会とコンピュータ』(第3回)(第6回) ・ビッグデータの収集と蓄積、クラウドサービス 『情報社会とコンピュータ』(第4回)(第11回) ・ビッグデータ活用事例 『情報社会とコンピュータ』(第3回) ・人の行動ログデータ 『情報社会とコンピュータ』(第11回)
	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・推論 『情報社会とコンピュータ』(第7回) ・汎用AI/特化型AI(強いAI/弱いAI) 『情報社会とコンピュータ』(第6回) ・フレーム問題 『情報社会とコンピュータ』(第6回) ・AI技術の活用領域の広がり(流通、インフラ、など) 『情報社会とコンピュータ』(第3回)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> ・AI倫理、AIの社会的受容性 『情報社会とコンピュータ』(第14回)(第15回) ・プライバシー保護、個人情報の取り扱い 『情報社会とコンピュータ』(第15回) ・AIに関する原則/ガイドライン 『情報社会とコンピュータ』(第14回)(第15回)
	3-3	<ul style="list-style-type: none"> ・実世界で進む機械学習の応用と発展(商品推薦など) 『情報社会とコンピュータ』(第8回)(第9回) ・機械学習、教師あり学習、教師なし学習、強化学習 『情報社会とコンピュータ』(第6回)(第7回) ・学習データと検証データ 『情報社会とコンピュータ』(第7回) ・バイアス 『情報社会とコンピュータ』(第6回)
	3-4	<ul style="list-style-type: none"> ・実世界で進む深層学習の応用と革新(画像認識など) 『情報社会とコンピュータ』(第7回) ・ニューラルネットワークの原理 『情報社会とコンピュータ』(第7回)
3-9	<ul style="list-style-type: none"> ・AIの学習と推論、評価、再学習 『プログラム言語D』(第12回)(第13回) ・AIの開発環境と実行環境 『プログラム言語D』(第10回) ・複数のAI技術を活用したシステム(スマートスピーカー、AIアシスタントなど) 『情報社会とコンピュータ』(第6回) 	

(3)本認定制度が育成目標として掲げる「データを人や社会にかかわる課題の解決に活用できる人材」に関する理解や認識の向上に資する実践の場を通じた学習体験を行う学修項目群。応用基礎コアのなかでも特に重要な学修項目群であり、「データエンジニアリング基礎」、及び「データ・AI活用 企画・実施・評価」から構成される。	I	「データエンジニアリング基礎」に関連して『プログラム言語C』『プログラム言語D』を通じて学習体験を行う。 ・プログラミング基礎 文字型、整数型、浮動小数点型『プログラム言語C』(第3回)『プログラム言語D』(第2回) 変数、代入、四則演算、論理演算『プログラム言語C』(第3回)『プログラム言語D』(第2回) 関数、引数、戻り値『プログラム言語C』(第10回)(第11回)『プログラム言語D』(第4回) 順次、分岐、反復の構造を持つプログラムの作成『プログラム言語C』(第5回)(第6回)(第7回)(第8回)(第9回) 『プログラム言語D』(第3回)
	II	「データ・AI活用 企画・実施・評価」に関連して『プログラム言語D』を通じて学習体験を行う。 ・データ・AI活用 企画・実施・評価 AIの開発環境と実行環境『プログラム言語D』(第10回) AIのアルゴリズムとデータ表現『プログラム言語D』(第11回) AIの学習と推論『プログラム言語D』(第12回) AIの評価、再学習『プログラム言語D』(第13回) AI活用の企画・構築『プログラム言語D』(第14回) AI活用の実施・評価『プログラム言語D』(第15回)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

<ul style="list-style-type: none"> ・データから意味を抽出できること ・抽出した意味を現場に還元できること ・AIの活用について理解し、課題解決につなげることができること ・自らの専門分野にデータサイエンスを応用できること
--

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容

「数理・データサイエンス・AI(応用基礎レベル)モデルカリキュラム改訂版」(2024年2月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)における、コア学修項目「3-5 生成AIの基礎と展望」の内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)について、令和7年度以降の実施・検討状況などを記載してください。(教育プログラムに含む・含める科目に限り記載し、構想を含む講義内容が記載出来る場合は記載してください)

※本項目は令和7年度先行認定より改訂版モデルカリキュラムを完全適用することを踏まえ、各大学等の実施・検討状況を参考に伺うものであり、認定要件とはなりません。

実施・検討状況
令和6年度より、授業科目「情報社会とコンピュータ」の第7回「機械学習のしくみ」の中で、生成AI(対話型人工知能)について解説している。

0

応用基礎レベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和6 年度(和暦)

②大学等全体の男女別学生数 男性 1432 人 女性 465 人 (合計 1897 人)
 (令和6年5月1日時点)

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
ビジネス情報学部	1,601	410	1,640	340	0											340	21%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合計	1,601	410	1,640	340	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	340	21%

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人

② プログラムの授業を教えている教員数 人

③ プログラムの運営責任者
 (責任者名) (役職名)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(責任者名) (役職名)

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

⑥ 体制の目的
 データサイエンスセンターは、以下に掲げる事業を推進・支援する。
 (1) AI戦略2019を受け、本学における初級レベルの数理・データサイエンス・AI教育とその点検・評価に係る事項
 (2) 前号に必要となる施設設備、教育機器備品類などの検討
 (3) その他本学の数理・データサイエンス・AI教育に関連する事項等

⑦ 具体的な構成員
 データサイエンスセンター長 ビジネス情報学部 教授 樽井勇之
 ビジネス情報学部 准教授 関川弘
 看護学部 教授 豊田修一

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和6年度実績	21%	令和7年度予定	42%	令和8年度予定	67%
令和9年度予定	91%	令和10年度予定	95%	収容定員(名)	1,640

具体的な計画

各年度における入学者の履修者数・履修率の目標値(()内は当該年度入学生の履修率)

令和6年度 340名(83%)

令和7年度 350名(81%)

令和8年度 430名(100%)

令和9年度 430名(100%)

令和10年度 430名(100%)

プログラム対象科目「情報社会とコンピュータ」は、国際ビジネス学科国際ビジネスコース／会計ファイナンスコース／経営・経済コース、スポーツ健康マネジメント学科スポーツマネジメントコース／スポーツトレーナーコースにおいて必修科目であり、全学生が履修する。スポーツ健康マネジメント学科柔道整復師コース／救急救命士コースでは教養選択科目となっているが、令和8年度以降に必修科目にする計画である。「プログラム言語C」「プログラム言語D」は、国際ビジネス学科経営・経済コース、スポーツ健康マネジメント学科スポーツマネジメントコース／スポーツトレーナーコースにおいては専門選択科目となっている。国際ビジネス学科会計ファイナンスコース／国際ビジネスコースは令和8年度以降に専門選択科目にする計画である。スポーツ健康マネジメント学科柔道整復師コース／救急救命士コースは令和8年度以降に教養選択科目にする計画である。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

プログラム対象科目は、学科・コースに関係なく学生全員が受講できる体制が整っている。

国際ビジネス学科においてプログラム対象科目のうち「プログラム言語C」「プログラム言語D」は経営・経済コースでは専門選択科目として履修できる。会計ファイナンスコース／国際ビジネスコースでは「教職科目・自由科目を除くすべての学科開講科目」として履修できる。

スポーツ健康マネジメント学科においてプログラム対象科目のうち「プログラム言語C」「プログラム言語D」はスポーツマネジメントコース／スポーツトレーナーコースでは専門選択科目として履修できる。柔道整復師コース／救急救命士コースでは「国際ビジネス学科における授業科目の履修」として「プログラム言語C」「プログラム言語D」を履修でき、修得した単位は柔道整復師コースは「各区分選択科目」として、救急救命士コースは「教養選択科目」のカテゴリーに属するものとして算定される。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

新入生ガイダンスでプログラム対象科目となる関連科目についての説明を行う。

大学ホームページや履修登録ガイダンスを通じてプログラムの紹介を行う。

新入生ガイダンスや大学ホームページによりデータサイエンスの重要性について学生に理解させる。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

入学時のオリエンテーション時に、きめ細かい履修登録指導が行われている。また、ゼミ単位での入学時におけるガイダンスが実施され、1人ひとりを対象とした履修登録指導が行われている。履修登録システム(STEP)を利用することにより、プログラム対象科目にあたっては漏れなく履修登録できる仕組みが整っている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

プログラム担当教員がオフィスアワーを設け、学生から質問や相談を受け付けている。オフィスアワーについては、授業の初回に担当教員により説明を行っている。

大学等名 上武大学

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

上武大学データサイエンスセンター、内部質保証委員会

(責任者名) 樽井勇之

(役職名) データサイエンスセンター長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	ビジネス情報学部において、本教育プログラム対象科目の履修者数、成績等のデータについては、履修登録システム(STEP)を活用することにより、受講者毎の履修・修得状況を把握できる。本教育プログラムの自己点検・評価を行う上武大学データサイエンスセンターで履修・修得状況を確認し、履修者数の増加や修得状況の改善を行っている。
学修成果	内部質保証委員会で実施している授業評価アンケート結果を分析することによって、学修成果を把握することができる。内部質保証委員会で実施している授業評価アンケートのうち、本教育プログラム対象科目を抽出し、上武大学データサイエンスセンターで自己点検・評価を実施し、本教育プログラムの評価・改善に活用している。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	本教育プログラム対象科目に対して授業評価アンケートを実施しており、設問「授業内容を理解できたか」という回答をみることによって、学生の理解度を分析している。本教育プログラム対象科目「情報社会とコンピュータ」で、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した者は、スポーツ健康マネジメント学科では58%、国際ビジネス学科では76%であった。本教育プログラム対象科目「プログラム言語C」で、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した者はビジネス情報学部で77%であった。本教育プログラム対象科目「プログラム言語D」で、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した者はビジネス情報学部で71%であった。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	本教育プログラム対象科目に対して授業評価アンケートを実施しており、設問「授業は有意義であったか」という回答をみることによって、他の学生への推奨度を推察している。本教育プログラム対象科目「情報社会とコンピュータ」で、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した者は、スポーツ健康マネジメント学科では55%、国際ビジネス学科では79%であった。本教育プログラム対象科目「プログラム言語C」で、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した者はビジネス情報学部で92%であった。本教育プログラム対象科目「プログラム言語D」で、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した者はビジネス情報学部で72%であった。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本教育プログラム対象科目「情報社会とコンピュータ」はビジネス情報学部国際ビジネス学科、スポーツ健康マネジメント学科スポーツマネジメントコース/スポーツトレーナーコースにおける1年生の必修科目である。本教育プログラム対象科目「プログラム言語C」「プログラム言語D」はビジネス情報学部国際ビジネス学科経営・経済コース、スポーツ健康マネジメント学科スポーツマネジメントコース/スポーツトレーナーコースでは専門選択科目である。今後のカリキュラムの見直しにより国際ビジネス学科ではすべてのコースで専門選択科目とし、スポーツ健康マネジメント学科柔道整復師コース・救急救命士コースでは教養選択科目とする予定である。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>本教育プログラムは2024年度の入学生より実施を始めたため履修者はいるが、卒業生はまだいない状況である。ビジネス情報学部国際ビジネス学科経営・経済コースには2025年度からはデータサイエンスクラスの開設が予定されている。2024年度入学生より実施している本教育プログラムを履修した学生や2025年度から開設されるデータサイエンスクラスの学生が卒業後に活躍していくことが期待される。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>本学が毎年実施する就職支援のための学内セミナーに参加している企業に対して本教育プログラム内容についての意見を伺っている。本教育プログラムの内容については良好な回答が得られている。例えば「顧客から受注をいただく製造メーカーのため、統計から分析・解析と提案が行える人材を重宝している」「学生のレベルに合わせた講義は大切である」などの意見があった。さらに、産業界からみて大学のデータサイエンス教育に求められる内容について意見を伺い、上武大学データサイエンスセンターにてプログラムの改善に活用している。</p>
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	<p>本教育プログラムを担当する教員が、数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラムに準拠した教科書を執筆し授業で活用している。教科書のタイトルは「新入生のためのデータサイエンス入門」(共立出版、2023年)である。図解を多用することにより、学ぶことの楽しさや学ぶことの意義を含めた内容としている。応用基礎レベルについても資料を作成し、実データを使ったコンピュータ実習ができるようになっている。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>本教育プログラムを担当する教員が執筆した教科書を利用することにより、分かりやすい授業を実施している。ビジネス情報学部国際ビジネス学科・スポーツ健康マネジメント学科の学生に対し、全学的に同じ教科書を利用することにより内容・水準を維持している。また、授業評価アンケートを内部質保証委員会で実施し、上武大学データサイエンスセンターで分析することによって授業内容の向上を図っている。</p>

国際ビジネス学科

ホーム > 学部・学科

ビジネス情報学部

国際ビジネス学科

スポーツ健康
マネジメント学科

看護学部

看護学科

シラバス

シラバス

■2024年度 ビジネス情報学部 国際ビジネス学科シラバス

*オフィスアワー

*「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無一覧

学科共通 学科の必修科目

科目名	配当	単位	担当者	備考
フレッシュャーズゼミA	1	2	全担当教員共通	クラス指定
フレッシュャーズゼミA (税理士養成クラス)	1	2	若下 尚義	税理士養成クラス
フレッシュャーズゼミB	1	2	全担当教員共通	クラス指定
フレッシュャーズゼミB (税理士養成クラス)	1	2	若下 尚義	税理士養成クラス
コンピュータリテラシA	1	2	楳松 盛夫 黒瀬 雅詞	クラス指定
コンピュータリテラシB	1	2	楳松 盛夫 黒瀬 雅詞	クラス指定
経済学基礎	1	2	小松原宗史	
経営学基礎	1	2	丸山 高行	
会計学基礎	1	2	安藤 毅也	
情報社会とコンピュータ	1	2	榎井 勇之	
必修英語A	1	2	鈴木 楓 ジェリー・ブッシュ	クラス指定・週2回
必修英語B	1	2	鈴木 楓 ジェリー・ブッシュ	クラス指定・週2回
言語コミュニケーションA①	1	2	深谷 秀樹	クラス指定(留学生)
言語コミュニケーションA②	1	2	原田 桂	クラス指定
言語コミュニケーションA③	1	2	原田 桂	クラス指定
言語コミュニケーションA④	1	2	2024年度休講	
言語コミュニケーションB①	1	2	深谷 秀樹	クラス指定(留学生)
言語コミュニケーションB②	1	2	原田 桂	クラス指定
言語コミュニケーションB③	1	2	原田 桂	クラス指定
言語コミュニケーションB④	1	2	2024年度休講	
教養ゼミ	2	2	全担当教員共通	クラス指定
IT教養ゼミ	2	2	楳松 盛夫	
トップマネジメント講話	2	2	全担当教員共通	クラス指定

情報社会とコンピュータ		講義 2単位	教授 梅井 勇之	
科目カテゴリー	国際ビジネス学科の必修科目 教職科目	科目ナンバリング	21200106 25310106	

1. 授業のねらい・概要

デジタル社会において、数理・データサイエンス・AI (Artificial Intelligence) を日常生活、企業活動、地域活動の場で使いこなすことができる知識・技能を身につけることがねらいである。現在、あらゆる分野でAIが搭載され、日常生活のさまざまな場面でも利活用が進んでいる。本科目を学ぶことによって、このような技術を取り扱う際にも、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意思で利活用でき、生活をより豊かなものにすることができる。

本科目は、文科省の数理・データサイエンス・AI (リテラシーレベル) の知識全般を身に付けることができる。

2. 授業の進め方

講義中心に進めるが理解を深めるために定期的に小テストを行う。

3. 授業計画

1. データを取り扱うハードウェア	9. 推薦システムのしくみ
2. データを取り扱うソフトウェア	10. 情報の可視化
3. 社会で起きている変化	11. インターネットとアクセス解析
4. 企業におけるデータ利活用	12. データを読む・説明する
5. データの前処理と分析のプロセス	13. データを扱う
6. 日常生活の中の人工知能	14. 情報セキュリティとAI利活用における留意事項
7. 機械学習のしくみ	15. 個人情報の保護と活用
8. コンピュータからのおすすめ情報	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

課題として出題された内容の復習に1時間程度必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題を出題後にヒントを与え、次回授業時に解答のポイントを説明する。定期試験については模範解答を掲示する。

6. 授業における学修の到達目標

情報および情報技術を理解し、大学に設置されているコンピュータ利用が円滑かつ適正に行えることを目的とする。

7. 成績評価の方法・基準

課題（50%）、期末試験の結果（50%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

教科書：「新入生のためのデータサイエンス入門」、共立出版、2023年

9. 受講上の留意事項

講義と同時に課題を出題するので、欠席しないこと。また、講義の内容を理解するためにノートをきちんととること。理解できないときは積極的に質問してください。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ健康マネジメント学科

ホーム > 学部・学科 > スポーツ健康マネジメント学科 令和6(2024)年度シラバス

ビジネス情報学部

国際ビジネス学科

スポーツ健康
マネジメント学科

看護学部

看護学科

Google 検索

シラバス

シラバス

令和6(2024)年度 ビジネス情報学部 スポーツ健康マネジメント学科シラバス

* オフィスアワー

* 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無一覧

1. 学科共通の必修科目

科目名	配当	単位	担当教員	備考
コンピュータリテラシA	1	2	複数教員	クラス指定
経営学基礎	1	2	八木 孝幸	クラス指定
スポーツ概論	1	2	小笠原 正志	クラス指定
必修英語A	1	2	複数教員	クラス指定
トップマネジメント講話	2	2	複数教員	クラス指定

1-1. スポーツマネジメント・スポーツトレーナーコースの必修科目

科目名	配当	単位	担当教員	備考
フレッシュャーズゼミA	1	2	複数教員	クラス指定
フレッシュャーズゼミB	1	2	複数教員	クラス指定
コンピュータリテラシB	1	2	複数教員	クラス指定
教養ゼミ	2	2	複数教員	クラス指定
情報社会とコンピュータ	1	2	関川 弘	クラス指定
経済学基礎	1	2	小松原 崇史	クラス指定
マーケティング基礎	1	2	大澤 勇一	クラス指定
必修英語B	1	2	複数教員	クラス指定
キャリアデザイン	2	2	就職委員会	
選択英語A(1)	2	2	加藤 芳孝	
選択英語A(2)	2	2	松本 秀樹	
選択英語A(3)	2	2	加藤 芳孝	
選択英語A(4)	2	2	松本 秀樹	
選択英語A(5)	2	2	村元 エリカ マリア	
選択英語B(1)	2	2	加藤 芳孝	
選択英語B(2)	2	2	松本 秀樹	
選択英語B(3)	2	2	加藤 芳孝	
選択英語B(4)	2	2	松本 秀樹	
選択英語B(5)	2	2	村元 エリカ マリア	
選択ドイツ語A	2	2		令和6(2024)年度休講
選択ドイツ語B	2	2		令和6(2024)年度休講
選択フランス語A	2	2	加藤 芳孝	
選択フランス語B	2	2	加藤 芳孝	
選択中国語A	2	2		令和6(2024)年度休講
選択中国語B	2	2		令和6(2024)年度休講
専門ゼミA	3	2	小笠原 正志	
専門ゼミB	3	2	小笠原 正志	
専門ゼミA	3	2	大森 肇	
専門ゼミB	3	2	大森 肇	
専門ゼミA	3	2	小笠原 正志	

情報社会とコンピュータ		講義 2単位	准教授 関川 弘	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの必修科目、スポーツトレーナーコースの必修科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11120103 12220121 13220103	

1. 授業のねらい・概要

コンピュータに関する技術は急速に進歩している。今日では人工知能を活用した新しいサービスが次々登場し社会のあらゆる分野に浸透しつつある。このような情報社会において、日常生活、企業活動、地域活動をスムーズに行うためには、コンピュータの基本的な仕組みを学ぶとともに、人工知能やデータの利活用に関する理解を深める必要がある。本講義では、数理・データサイエンス・AIのリテラシーレベルの素養を身に付ける。

2. 授業の進め方

配布資料を基にした講義形式で進める。毎回、講義後に授業内容のサマリーの提出を求め、その内容について講義でディスカッションする。また、海外の文献や雑誌に掲載されている英語による最新記事や動画を用いて関連動向について検討する。

3. 授業計画

1. データを取り扱うハードウェア	9. 推薦システムのしくみ
2. データを取り扱うソフトウェア	10. 情報の可視化
3. 社会で起きている変化	11. インターネットとアクセス解析
4. 企業におけるデータ利活用	12. データを読む・説明する
5. データの前処理と分析のプロセス	13. データを扱う
6. 日常生活の中の人工知能	14. 情報セキュリティとAI利活用における留意事項
7. 機械学習のしくみ	15. 個人情報の保護と活用
8. コンピュータからのおすすめ情報	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

準備として1時間程度、インターネットや関連文献を用いて調査すること。毎回の講義終了後30分程度、学習した内容をどれだけ多く、正確に説明・解説できるか自身で試みる。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

回答のポイント、及び出題の目的を説明した資料を配布する。また、毎回の講義で質問を受け付ける。レポート提出を求める場合、次回講義で、いくつかのレポートを事例に取り上げアドバイスを行う。

6. 授業における学修の到達目標

情報社会とコンピュータ、データサイエンスに関する理解を深め、関連する時事トピックや書籍を理解できるようになる。また、コンピュータやデータを適切に利用できるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

期末試験（50%）と毎回講義後に提出を求める講義サマリー（30%）、授業への貢献度（20%）で評価する。サマリーについては、どれだけ多く思考したかを基準に評価する。

8. テキスト・参考文献

資料を毎回プリント配布する。
教科書 新入生のためのデータサイエンス入門、共立出版、2023
参考文献は適宜紹介する。

9. 受講上の留意事項

情報社会のプラス面とマイナス面を理解しバランスの取れた見識を養うこと。また、新聞やインターネットを通して新しい情報技術とその可能性に対する関心を持つこと。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、情報システム開発会社における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

> 大学の概要

> 教育の特色

> 学部・学科

> 大学院

> 入試情報

> 就職情報

国際ビジネス学科

ホーム > 学部・学科

ビジネス情報学部

国際ビジネス学科

スポーツ健康
マネジメント学科

看護学部

看護学科

シラバス

シラバス

2024年度 ビジネス情報学部 国際ビジネス学科シラバス 経営・経済コースの選択必修科目

科目名	配当	単位	担当者	備考
統計学	1	2	竹内 秀安	
経営数学	1	2	竹内 秀安	
自然に学ぶ技術論A	1	2	2024年度休講	
自然に学ぶ技術論B	1	2	2024年度休講	
経営管理総論A	2	2	岡野 武志	
経営管理総論B	2	2	岡野 武志	
経営組織論	2	2	丸山 高行	
経営情報論	2	2	榊井 勇之	
経営戦略論	2	2	丸山 高行	
経済政策論	2	2	岡野 武志	
情報社会と情報倫理	2	2	榊井 勇之	
オペレーションズリサーチ	2	2	竹内 秀安	
コンピュータ概論	2	2	松本 浩樹	
マーケティング論	2	2	岡野 武志	
マクロ経済学	2	2	小松原 崇史	
ミクロ経済学	2	2	小松原 崇史	
データリテラシー	2	2	豊田 伸一	
データ分析の基礎	2	2	豊田 伸一	
ビジネスデータ分析	2	2	岡野 武志	

経営・経済コースの専門選択科目

科目名	配当	単位	担当者	備考
簿記論	1	2	田地野 幹雄	
財務諸表論	1	2	岩下 尚義	
政治学	2	2	2024年度休講	
プログラム言語A	2	2	榊井 勇之	
プログラム言語B	2	2	榊井 勇之	
プログラム言語C	2	2	榊井 勇之	
プログラム言語D	2	2	榊井 勇之	
アルゴリズムA	2	2	2024年度休講	
アルゴリズムB	2	2	2024年度休講	
応用ソフトウェア	2	2	榊松 盛夫	
オペレーティングシステム	2	2	2024年度休講	
ネットワークシステム	2	2	2024年度休講	
データベース論	2	2	榊井 勇之	
データベース演習	2	2	榊井 勇之	
情報セキュリティ	2	2	2024年度休講	
Webデザイン	2	2	榊井 勇之	
Webアプリケーション	2	2	2024年度休講	

プログラム言語C		講義 2単位	教授 梅井 勇之	
科目カテゴリー	経営・経済コースの専門選択科目	科目ナンバリング	23002204	

1. 授業のねらい・概要

Pythonによりプログラミングの基礎を学習し、基礎的なPythonプログラムが作成できるようになることがねらいである。

- (1) アルゴリズムを理解し、フローチャートを描くことができる。
- (2) プログラムの基礎とデータ構造を学び、順次・分岐・反復を組み合わせてプログラミングできる。
- (3) 代表的なアルゴリズムである探索（サーチ）と並び替え（ソート）のプログラムが理解できる。

2. 授業の進め方

テキストやプリントの演習問題に基づいてプログラムを作成する。講義と実習中心の授業形式で進める。

3. 授業計画

1. ガイダンス（Pythonの開発環境） 2. アルゴリズムの表現（フローチャート） 3. プログラミング基礎 （文字型、整数型、浮動小数点型） （変数、代入、四則演算、論理演算） 4. データ構造（配列、リスト） 5. 順次 6. 分岐1 7. 分岐2 8. 反復1	9. 反復2 10. 関数の基礎（関数、引数、戻り値） 11. 関数の利用 12. 探索1（サーチ） 13. 探索2（線形探索、二分探索） 14. 並び替え1（ソート） 15. 並び替え2（選択ソート、挿入ソート）
--	---

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

プログラムを理解するため、パソコンを使ったプログラミングが1時間以上必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題を出題後にプログラミングのヒントを与え、授業時間終了前に模範解答を説明する。定期試験については模範解答を掲示する。

6. 授業における学修の到達目標

プログラムの動作原理やアルゴリズムの概念が理解できるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

課題の成果物（60%）、定期試験の結果（40%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

テキスト：「プログラムのつくりかた Python 入門編 Lv.0」, 実教出版, 2022
「プログラムのつくりかた Python 基礎編 Lv.1」, 実教出版, 2022

9. 受講上の留意事項

演習を中心に進めるので必ず出席すること。操作や意味がわからないときには積極的に質問すること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無
該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連
上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

プログラム言語D		講義 2単位	教授 梅井 勇之	
科目カテゴリー	経営・経済コースの専門選択科目	科目ナンバリング	23002205	

1. 授業のねらい・概要

Pythonによりプログラミングの基礎と応用を学習し、AIのアルゴリズムやAIを活用することがねらいである。

- (1) プログラミングの基礎、順次・分岐・反復構造の利用、関数やデータ構造を理解できる。
- (2) データの形式を理解し、ファイルの読み書きができる。
- (3) オブジェクト指向プログラミングについて理解できる。
- (4) AIのアルゴリズムやデータ構造を理解し、AIの企画・構築・実施・評価ができる。

2. 授業の進め方

テキストやプリントの演習問題に基づいてプログラムを作成する。講義と実習中心の授業形式で進める。

3. 授業計画

1. ガイダンス Pythonの概要と開発環境 2. プログラミング基礎 (文字型, 整数型, 浮動小数点型) (変数, 代入, 四則演算, 論理演算) 3. 構造化プログラミング(順次・分岐・反復) 4. 関数とメソッド 5. データ表現(配列・リスト, タプル, 集合, 辞書) 6. ライブラリの利用 7. データ形式とデータ変換(CSV, JSON等) 8. ファイルの読み書き	9. オブジェクト指向プログラミング 10. AIの開発環境と実行環境 11. AIのアルゴリズムとデータ表現 12. AIの学習と推論 13. AIの評価, 再学習 14. AI活用の企画・構築 15. AI活用の実施・評価
--	---

4. 準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

プログラムを理解するため、パソコンを使ったプログラミングが1時間以上必要である。

5. 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題を出題後にプログラミングのヒントを与え、授業時間終了前に模範解答を説明する。定期試験については模範解答を掲示する。

6. 授業における学修の到達目標

プログラムの動作原理やオブジェクト指向の概念の理解、AI活用の企画・構築・実施・評価ができるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

課題の成果物(60%)、定期試験の結果(40%)によって評価する。

8. テキスト・参考文献

テキスト: 「プログラムのつくりかた Python 入門編 Lv.0」, 実教出版, 2022
「プログラムのつくりかた Python 基礎編 Lv.1」, 実教出版, 2022

9. 受講上の留意事項

- ・受講条件として基礎科目である「プログラム言語C」を単位修得済みであること。
- ・演習を中心に進めるので欠席しないように。操作や意味がわからないときには積極的に質問すること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無
該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連
上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ健康マネジメント学科

ホーム > 学部・学科 > スポーツ健康マネジメント学科 > 令和6(2024)年度シラバス

ビジネス情報学部

国際ビジネス学科

スポーツ健康
マネジメント学科

看護学部

看護学科

Google 検索

シラバス

シラバス

令和6(2024)年度 ビジネス情報学部 スポーツ健康マネジメント学科シラバス

スポーツマネジメントコースの選択必修科目

科目名	配当	単位	担当教	備考
スポーツ社会学	1	2	菅谷 美沙都	
簿記論	1	2	白山 真一	
会计学基礎	1	2	白山 真一	
ヘルスマネジメント	2	2	一戸 真子	
スポーツ行政論	2	2	菅谷 美沙都	
スポーツマネジメント論	2	2	菅谷 美沙都	
地域スポーツ論	2	2	小笠原 正志	
スポーツイベント論	2	2	遠政 大樹	
メディアスポーツ論	2	2	榎本 繁精	
スポーツマーケティング	2	2	菅谷 美沙都	
スポーツ施設管理論	2	2	菅谷 美沙都	
スポーツ用品市場論	2	2	菅谷 美沙都	
スポーツ産業論	2	2	菅谷 美沙都	
経営戦略論	2	2	花田 哲郎	
経営組織論	2	2	小杉 樹彦	
経営管理総論A	2	2	花田 哲郎	
経営管理総論B	2	2	花田 哲郎	

スポーツマネジメントコースの専門選択科目

科目名	配当	単位	担当教	備考
スポーツ実技(陸上競技)	1	1	小川 嘉孝	
スポーツ実技(器械運動)	1	1	相原 誠	
プログラム言語C	2	2	榎井 勇之	
プログラム言語D	2	2	榎井 勇之	
健康・体力科学のデータサイエンス基礎	2	2	中川 剣人	
ヒトの動作情報解析	2	2	中川 剣人	
スポーツデータサイエンス入門	2	2	柳澤 修	
スポーツパフォーマンス分析	2	2	柳澤 修	
基礎運動学	2	2	中川 剣人	
トレーニングの科学的基礎	2	2	小笠原 正志	
スポーツ心理学	2	2	竹内 成生	
スポーツ医学	2	2	柳澤 修	
スポーツ栄養学	2	2	田中 文子	
リハビリテーション論	2	2	大森 肇	
運動生理学	2	2	大森 肇	

プログラム言語C		講義 2単位	教授 樽井 勇之	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門 選択科目、スポーツトレーナーコー スの専門選択科目	科目ナンバリング	11322227	

1. 授業のねらい・概要

Pythonによりプログラミングの基礎を学習し、基礎的なPythonプログラムが作成できるようになることがねらいである。

- (1) アルゴリズムを理解し、フローチャートを描くことができる。
- (2) プログラムの基礎とデータ構造を学び、順次・分岐・反復を組み合わせてプログラミングできる。
- (3) 代表的なアルゴリズムである探索（サーチ）と並び替え（ソート）のプログラムが理解できる。

2. 授業の進め方

テキストやプリントの演習問題に基づいてプログラムを作成する。講義と実習中心の授業形式で進める。

3. 授業計画

1. ガイダンス (Python の開発環境)	9. 反復 2
2. アルゴリズムの表現 (フローチャート)	10. 関数の基礎 (関数, 引数, 戻り値)
3. プログラミング基礎 (文字型, 整数型, 浮動小数点型) (変数, 代入, 四則演算, 論理演算)	11. 関数の利用
4. データ構造 (配列, リスト)	12. 探索 1 (サーチ)
5. 順次	13. 探索 2 (線形探索, 二分探索)
6. 分岐 1	14. 並び替え 1 (ソート)
7. 分岐 2	15. 並び替え 2 (選択ソート, 挿入ソート)
8. 反復 1	

4. 準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間

プログラムを理解するため、パソコンを使ったプログラミングが1時間以上必要である。

5. 課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法

課題を出題後にプログラミングのヒントを与え、授業時間終了前に模範解答を説明する。定期試験については模範解答を掲示する。

6. 授業における学修の到達目標

プログラムの動作原理やアルゴリズムの概念が理解できるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

課題の成果物 (60%), 定期試験の結果 (40%) によって評価する。

8. テキスト・参考文献

テキスト: 「プログラムのつくりかた Python 入門編 Lv.0」, 実教出版, 2022
「プログラムのつくりかた Python 基礎編 Lv.1」, 実教出版, 2022

9. 受講上の留意事項

演習を中心に進めるので必ず出席すること。操作や意味がわからないときには積極的に質問すること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

プログラム言語D		講義 2単位	教授 樽井 勇之	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門 選択科目、スポーツトレーナーコー スの専門選択科目	科目ナンバリング	11322228	

1. 授業のねらい・概要

Pythonによりプログラミングの基礎と応用を学習し、AIのアルゴリズムやAIを活用することがねらいである。

- (1) プログラミングの基礎、順次・分岐・反復構造の利用、関数やデータ構造を理解できる。
- (2) データの形式を理解し、ファイルの読み書きができる。
- (3) オブジェクト指向プログラミングについて理解できる。
- (4) AIのアルゴリズムやデータ構造を理解し、AIの企画・構築・実施・評価ができる。

2. 授業の進め方

テキストやプリントの演習問題に基づいてプログラムを作成する。講義と実習中心の授業形式で進める。

3. 授業計画

1. ガイダンス Pythonの概要と開発環境	9. オブジェクト指向プログラミング
2. プログラミング基礎 (文字型, 整数型, 浮動小数点型) (変数, 代入, 四則演算, 論理演算)	10. AIの開発環境と実行環境
3. 構造化プログラミング(順次・分岐・反復)	11. AIのアルゴリズムとデータ表現
4. 関数とメソッド	12. AIの学習と推論
5. データ表現(配列・リスト, タプル, 集合, 辞書)	13. AIの評価, 再学習
6. ライブラリの利用	14. AI活用の企画・構築
7. データ形式とデータ変換(CSV, JSON等)	15. AI活用の実施・評価
8. ファイルの読み書き	

4. 準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

プログラムを理解するため、パソコンを使ったプログラミングが1時間以上必要である。

5. 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題を出題後にプログラミングのヒントを与え、授業時間終了前に模範解答を説明する。定期試験については模範解答を掲示する。

6. 授業における学修の到達目標

プログラムの動作原理やオブジェクト指向の概念の理解、AI活用の企画・構築・実施・評価ができるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

課題の成果物(60%)、定期試験の結果(40%)によって評価する。

8. テキスト・参考文献

テキスト: 「プログラムのつくりかた Python 入門編 Lv.0」, 実教出版, 2022
「プログラムのつくりかた Python 基礎編 Lv.1」, 実教出版, 2022

9. 受講上の留意事項

- ・受講条件として基礎科目である「プログラム言語C」を単位修得済みであること。
- ・演習を中心に進めるので欠席しないように。操作や意味がわからないときには積極的に質問すること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無
該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連
上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

履修要項
該当部分

ビジネス情報学部
国際ビジネス学科

履修要項

令和6(2024)年度 入学生用



上武大学
ビジネス情報学部国際ビジネス学科
Faculty of Business Information Sciences

国際ビジネス学科

国際ビジネスコース卒業要件

区 分	科 目 名 称	配当年次	単位数	小 計	合 計
学 科 の 必 修 科 目	フレッシュヤーズゼミA	1	2	40	124
	フレッシュヤーズゼミB	1	2		
	教養ゼミ	2	2		
	トップマネジメント講話	2	2		
	専門ゼミA	3	2		
	専門ゼミB	3	2		
	卒業研究	4	4		
	経営学基礎	1	2		
	経済学基礎	1	2		
	会計学基礎	1	2		
	言語コミュニケーションA	1	2		
	言語コミュニケーションB	1	2		
	コンピュータリテラシA	1	2		
	コンピュータリテラシB	1	2		
	情報社会とコンピュータ	1	2		
	プレゼンテーション	2	2		
	キャリアデザイン	2	2		
	必修英語A	1	2		
	必修英語B	1	2		
	選択英語A	2	2		
	選択英語B	2	2		
	選択日本語A	2	2		
	選択日本語B	2	2		
	選択ドイツ語A	2	2		
	選択ドイツ語B	2	2		
	選択フランス語A	2	2		
	選択フランス語B	2	2		
選択中国語A	2	2			
選択中国語B	2	2			
コ ー ス の 選 択 必 修 科 目	日本とアジアの経済	1	2	12	
	国際交流プログラム	1	2		
	グローバル化と国際社会A	1	2		
	グローバル化と国際社会B	1	2		
	自然に学ぶ技術論A	1	2		
	自然に学ぶ技術論B	1	2		
	企業倫理	2	2		
	経営戦略論	2	2		
	国際経済論	2	2		
	国際経営論	2	2		
	国際マーケティング論	2	2		
	国際金融論	2	2		
	国際取引法A	2	2		
	国際取引法B	2	2		
	世界経済史A	2	2		
世界経済史B	2	2			
コ ー ス の 専 門 選 択 科 目			44		
学 科 の 教 養 選 択 科 目			10		
教職科目・自由科目を除くすべての学科開講科目			14		

*コースの選択必修科目のうち、規定の12単位を超えて修得した科目の単位は、各コースの専門選択科目の単位として認められる。

国際ビジネス学科

会計ファイナンスコース卒業要件

区分	科目名称	配当年次	単位数	小計	合計
学科の必修科目	フレッシュヤーズゼミA	1	2	40	124
	フレッシュヤーズゼミB	1	2		
	教養ゼミ	2	2		
	トップマネジメント講話	2	2		
	専門ゼミA	3	2		
	専門ゼミB	3	2		
	卒業研究	4	4		
	経営学基礎	1	2		
	経済学基礎	1	2		
	会計学基礎	1	2		
	言語コミュニケーションA	1	2		
	言語コミュニケーションB	1	2		
	コンピュータリテラシA	1	2		
	コンピュータリテラシB	1	2		
	情報社会とコンピュータ	1	2		
	プレゼンテーション	2	2		
	キャリアデザイン	2	2		
	必修英語A	1	2		
	必修英語B	1	2		
	選択英語A	2	2		
	選択英語B	2	2		
	選択日本語A	2	2		
	選択日本語B	2	2		
選択ドイツ語A	2	2			
選択ドイツ語B	2	2			
選択フランス語A	2	2			
選択フランス語B	2	2			
選択中国語A	2	2			
選択中国語B	2	2			
コースの選択必修科目	簿記論	1	2	12	
	財務諸表論	1	2		
	ファイナンス入門	1	2		
	会計学総論	1	2		
	自然に学ぶ技術論A	1	2		
	自然に学ぶ技術論B	1	2		
	会計アドバンス演習	2	2		
	FP概論	2	2		
	租税法概論	2	2		
	財務会計論A	2	2		
	財務会計論B	2	2		
	工業簿記A	2	2		
	工業簿記B	2	2		
	管理会計論A	2	2		
	管理会計論B	2	2		
コースの専門選択科目			44		
学科の教養選択科目			10		
教職科目・自由科目を除くすべての学科開講科目			14		

*コースの選択必修科目のうち、規定の12単位を超えて修得した科目の単位は、各コースの専門選択科目の単位として認められる。

国際ビジネス学科

経営・経済コース卒業要件

区分	科目名称	配当年次	単位数	小	計	合	計
学科の必修科目	フレッシュャーズゼミA	1	2	40			
	フレッシュャーズゼミB	1	2				
	教養ゼミ	2	2				
	トップマネジメント講話	2	2				
	専門ゼミA	3	2				
	専門ゼミB	3	2				
	卒業研究	4	4				
	経営学基礎	1	2				
	経済学基礎	1	2				
	会計学基礎	1	2				
	言語コミュニケーションA	1	2				
	言語コミュニケーションB	1	2				
	コンピュータリテラシA	1	2				
	コンピュータリテラシB	1	2				
	情報社会とコンピュータ	1	2				
	プレゼンテーション	2	2				
	キャリアデザイン	2	2				
	必修英語A	1	2				
	必修英語B	1	2				
	選択英語A	2	2				
	選択英語B	2	2				
	選択日本語A	2	2				
	選択日本語B	2	2				
選択ドイツ語A	2	2					
選択ドイツ語B	2	2					
選択フランス語A	2	2					
選択フランス語B	2	2					
選択中国語A	2	2					
選択中国語B	2	2					
コースの選択必修科目	統計学	1	2	12			
	経営数学	1	2				
	自然に学ぶ技術論A	1	2				
	自然に学ぶ技術論B	1	2				
	経営管理総論A	2	2				
	経営管理総論B	2	2				
	経営組織論	2	2				
	経営情報論	2	2				
	経営戦略論	2	2				
	経済政策論	2	2				
	情報社会と情報倫理	2	2				
	オペレーションズリサーチ	2	2				
	コンピュータ概論	2	2				
	マーケティング論	2	2				
	マクロ経済学	2	2				
	ミクロ経済学	2	2				
	データリテラシー	2	2				
	データ分析の基礎	2	2				
	ビジネスデータ分析	2	2				
	コースの専門選択科目						
学科の教養選択科目				10			
教職科目・自由科目を除くすべての学科開講科目				14			

* コースの選択必修科目のうち、規定の12単位を超えて修得した科目の単位は、各コースの専門選択科目の単位として認められる。

(14) 教育課程表

次に掲げる授業科目名は今年度のものです。

次年度以降、教育上の配慮、その他の理由により新たな授業科目が開講されることや、逆に未開講となる授業科目等の変更が生じる場合があります。その場合には、年度当初のガイダンスでそのことについての説明が行われます。

学 科 共 通

学科の必修科目

科 目 名	配当	単位
フレッシューズゼミA	1	2
フレッシューズゼミB	1	2
コンピュータリテラシA	1	2
コンピュータリテラシB	1	2
経済学基礎	1	2
経営学基礎	1	2
会計学基礎	1	2
情報社会とコンピュータ	1	2
必修英語A	1	2
必修英語B	1	2
言語コミュニケーションA	1	2
言語コミュニケーションB	1	2
教養ゼミ	2	2
トップマネジメント講話	2	2
※選択英語A	2	2
※選択英語B	2	2
※選択日本語A	2	2
※選択日本語B	2	2
※選択ドイツ語A	2	2
※選択ドイツ語B	2	2
※選択フランス語A	2	2
※選択フランス語B	2	2
※選択中国語A	2	2
※選択中国語B	2	2
プレゼンテーション	2	2
キャリアデザイン	2	2
専門ゼミA	3	2
専門ゼミB	3	2
卒業研究	4	4

※選択語学は、同一言語で計4単位を修得すること。なお、母国語を選択することはできない。

選択日本語ABは、受講の指示を受けた留学生のみが受講する。

また、同一言語で4単位の規定以外に選択語学で修得した単位は、教養選択科目の単位として読み替えることができる。

自由科目	配当	単位
インターンシップ	3	2

学科の教養選択科目

科 目 名	配当	単位
哲学の基礎	1	2
哲学の展開	1	2
日本文化概論	1	2
文化交流史	1	2
心理学概論	1	2
青年の心理	1	2
社会科学の基礎A	1	2
社会科学の基礎B	1	2
社会学	1	2
日本国憲法	1	2
民法と生活A	1	2
民法と生活B	1	2
ビジネス法学入門	1	2
企業と社会A	1	2
企業と社会B	1	2
環境と社会	1	2
環境科学概論	1	2
地球科学概論	1	2
地球環境変遷史	1	2
群馬の自然環境	1	2
群馬の産業	1	2
数学総合演習	1	2
体育A	1	2
体育B	1	2
音楽文化論	1	2
音楽史	1	2
美術	1	2
映像文化論	1	2
公務員試験対策ゼミA	1	2
公務員試験対策ゼミB	1	2
落語に見る古典と現代A	1	2
落語に見る古典と現代B	1	2
海外研修	1	1
スポーツマネジメント研修	1	1
海外語学研修	1	2
社会貢献実践	1	2
*基礎日本語A	1	1
*基礎日本語B	1	1
*日本事情入門A	1	2
*日本事情入門B	1	2

*基礎日本語ABと日本事情入門ABは、受講の指示を受けた留学生のみが受講する。

経営・経済コース

コースの選択必修科目

科目名	配当	単位
統計学	1	2
経営数学	1	2
自然に学ぶ技術論A	1	2
自然に学ぶ技術論B	1	2
経営管理総論A	2	2
経営管理総論B	2	2
経営組織論	2	2
経営情報論	2	2
経営戦略論	2	2
経済政策論	2	2
情報社会と情報倫理	2	2
オペレーションズリサーチ	2	2
コンピュータ概論	2	2
マーケティング論	2	2
マクロ経済学	2	2
ミクロ経済学	2	2
データリテラシー	2	2
データ分析の基礎	2	2
ビジネスデータ分析	2	2

選択必修科目のうち、規定の12単位を超えて修得した科目の単位は、コースの専門選択科目の単位として認められる。

コースの専門選択科目

科目名	配当	単位
簿記論	1	2
財務諸表論	1	2
3級商業簿記	1	2
ITパスポート演習	1	2
基本情報技術者演習	1	2
国際交流プログラム	1	2
グローバルコミュニケーション	1	2
日本経済論A	2	2
日本経済論B	2	2
国際経済論	2	2
日本経済史A	2	2
日本経済史B	2	2
世界経済史A	2	2
世界経済史B	2	2
日本経営論	2	2
国際経営論	2	2
マーケティングリサーチ	2	2
生産管理論	2	2
サービス経済学	2	2

科目名	配当	単位
企業発展論	2	2
中小企業論A	2	2
中小企業論B	2	2
ベンチャービジネス論	2	2
企業倫理	2	2
知的財産論	2	2
情報社会論	2	2
広告文化論	2	2
開発経済学	2	2
公共経済学	2	2
財政学A	2	2
財政学B	2	2
国際金融論	2	2
財務会計論A	2	2
財務会計論B	2	2
原価計算論	2	2
租税法概論	2	2
行政学A	2	2
行政学B	2	2
政治学	2	2
プログラム言語A	2	2
プログラム言語B	2	2
プログラム言語C	2	2
プログラム言語D	2	2
アルゴリズムA	2	2
アルゴリズムB	2	2
応用ソフトウェア	2	2
オペレーティングシステム	2	2
ネットワークシステム	2	2
データベース論	2	2
データベース演習	2	2
情報セキュリティ	2	2
Webデザイン	2	2
Webアプリケーション	2	2
ヒューマンインターフェース	2	2
経営情報システム	2	2
システム設計	2	2
デザイン論	2	2
グラフィックデザイン	2	2
図形と画像の処理	2	2
マルチメディアデザイン	2	2
画像情報学	2	2
マルチメディア論	2	2
情報と職業	2	2

履修要項
該当部分

ビジネス情報学部
スポーツ健康マネジメント学科

履修要項

令和6(2024)年度 入学生用



上武大学
ビジネス情報学部スポーツ健康マネジメント学科
Faculty of Business Information Sciences

スポーツ健康マネジメント学科

スポーツマネジメントコース卒業要件

区分	科目名称	配当年次	単位数	小計	合計
スポーツマネジメント・ スポーツトレーナーコースの必修科目	フレッシュャーズゼミA	1	2	36	124
	フレッシュャーズゼミB	1	2		
	教養ゼミ	2	2		
	トップマネジメント講話	2	2		
	専門ゼミA	3	2		
	専門ゼミB	3	2		
	卒業研究	4	4		
	経営学基礎	1	2		
	経済学基礎	1	2		
	マーケティング基礎	1	2		
	スポーツ概論	1	2		
	コンピュータリテラシA	1	2		
	コンピュータリテラシB	1	2		
	情報社会とコンピュータ	1	2		
	キャリアデザイン	2	2		
	必修英語A	1	2	いずれか一つの 語学で4	
	必修英語B	1	2		
	選択英語A	2	2		
	選択英語B	2	2		
	選択ドイツ語A	2	2		
選択ドイツ語B	2	2			
選択フランス語A	2	2			
選択フランス語B	2	2			
選択中国語A	2	2	20		
選択中国語B	2	2			
コースの選択必修科目	スポーツ社会学	1		2	
	会計学基礎	1		2	
	簿記論	1		2	
	自然に学ぶ技術論A	1		2	
	自然に学ぶ技術論B	1		2	
	ヘルスマネジメント	2		2	
	スポーツ行政論	2		2	
	スポーツマネジメント論	2		2	
	地域スポーツ論	2		2	
	スポーツイベント論	2		2	
	メディアスポーツ論	2		2	
	スポーツマーケティング	2		2	
	スポーツ施設管理論	2		2	
	スポーツ用品市場論	2		2	
	スポーツ産業論	2	2		
	経営戦略論	2	2		
経営組織論	2	2			
経営管理総論A	2	2			
経営管理総論B	2	2			
コースの専門選択科目				42	
スポーツマネジメント・スポーツトレーナーコースの教養選択科目				10	
教職科目・自由科目を除くすべての学科開講科目（柔道整復師コースの科目・救急救命士コースの科目については指定科目）				12	

*コースの選択必修科目のうち、規定の20単位を超えて修得した科目の単位は、各コースの専門選択科目の単位として認められる。

スポーツトレーナーコース卒業要件

区 分	科 目 名 称	配当年次	単位数	小 計	合 計
スポーツマネジメント・スポーツトレーナーコースの必修科目	フレッシュャーズゼミA	1	2	36	124
	フレッシュャーズゼミB	1	2		
	教養ゼミ	2	2		
	トップマネジメント講話	2	2		
	専門ゼミA	3	2		
	専門ゼミB	3	2		
	卒業研究	4	4		
	経営学基礎	1	2		
	経済学基礎	1	2		
	マーケティング基礎	1	2		
	スポーツ概論	1	2		
	コンピュータリテラシA	1	2		
	コンピュータリテラシB	1	2		
	情報社会とコンピュータ	1	2		
	キャリアデザイン	2	2		
	必修英語A	1	2		
	必修英語B	1	2		
	選択英語A	2	2		
	選択英語B	2	2		
	選択ドイツ語A	2	2		
選択ドイツ語B	2	2			
選択フランス語A	2	2			
選択フランス語B	2	2			
選択中国語A	2	2			
選択中国語B	2	2			
コースの選択必修科目	人体構造学	1	2	20	
	救急処置	1	2		
	スポーツ指導論	1	2		
	コーチング論	1	2		
	生理・心理機能測定法	1	2		
	健康心理学	2	2		
	基礎運動学	2	2		
	トレーニングの科学的基礎	2	2		
	レジスタンストレーニングとコンディショニング	2	1		
	体力測定法	2	2		
	トレーニングプログラム論	2	2		
	トレーニング指導論	2	2		
	運動処方論	2	2		
	スポーツ栄養学	2	2		
	生理学	2	2		
	運動生理学	2	2		
	運動制御論	2	2		
	生体力学の基礎	2	2		
	知覚運動論	2	2		
	ヒトの動作情報解析	2	2		
バイオメカニクス	2	2			
スポーツ心理学	2	2			
コースの専門選択科目			42		
スポーツマネジメント・スポーツトレーナーコースの教養選択科目			10		
教職科目・自由科目を除くすべての学科開講科目（柔道整復師コースの科目・救急救命士コースの科目については指定科目）			12		

*コースの選択必修科目のうち、規定の20単位を超えて修得した科目の単位は、各コースの専門選択科目の単位として認められる。

柔道整復師コース卒業要件

区 分	科 目 名 称	配当年次	単位数	小 計	合 計
柔道整復師コースの必修科目	フレッシュャーズゼミA	1	2	24	124
	フレッシュャーズゼミB	1	2		
	教養ゼミ	2	2		
	トップマネジメント講話	2	2		
	専門ゼミA	3	2		
	専門ゼミB	3	2		
	卒業研究	4	4		
	経営学基礎	1	2		
	スポーツ概論	1	2		
	コンピュータリテラシA	1	2		
	必修英語A	1	2		
柔道整復師コースの専門基礎科目	人体の構造と機能		16以上	43 以上	124
	疾病と傷害		14		
	保健医療福祉と柔道整復の理念		11以上		
	柔道整復術の適応		2		
柔道整復師コースの専門科目	基礎柔道整復学		10以上	52 以上	124
	臨床柔道整復学		20		
	柔道整復実技		18		
	臨床実習		4		
各区分選択科目			5 以上		

注1 50単位以上（自由科目を除く）を修得してからでないと、「専門ゼミA・B」の履修申請を行うことはできない。

注2 原則として、「専門ゼミA・B」の単位を修得してからでないと、「卒業研究」の履修申請を行うことはできない。

注3 スポーツマネジメント・スポーツトレーナーコースにおける選択語学は、英語、ドイツ語、フランス語、中国語の中から、同一語で4単位を修得する。なお、母国語は履修することができない。

救急救命士コース卒業要件

区分	科目名称	配当年次	単位数	小計	合計
救急救命士コースの必修科目	フレッシューズゼミA	1	2	28	124
	フレッシューズゼミB	1	2		
	教養ゼミ	2	2		
	トップマネジメント講話	2	2		
	専門ゼミA	3	2		
	専門ゼミB	3	2		
	卒業研究	4	4		
	消防職員採用試験対策講座A	3	2		
	消防職員採用試験対策講座B	3	2		
	経営学基礎	1	2		
	スポーツ概論	1	2		
	コンピュータリテラシA	1	2		
	必修英語A	1	2		
救急救命士コースの専門基礎分野科目	人体の構造と機能			10以上	124
	疾患の成り立ちと回復の過程			8以上	
	健康と社会保障			6以上	
救急救命士コースの専門分野科目	救急医学概論			6	124
	救急症候・病態生理学			8	
	疾病救急医学			10	
	外傷救急医学			4	
	環境障害・急性中毒学			2	
	臨地実習			28	
救急救命士コースの教養選択科目			14以上		

- 注1 専門基礎分野24単位と専門分野58単位の82単位取得により、救急救命士の受験資格とされるが、卒業要件124単位を満す卒業見込みにより、救急救命士資格の受験資格が認められる。
- 注2 50単位以上（自由科目を除く）を修得してからでないと、「専門ゼミA・B」の履修申請を行うことはできない。
- 注3 原則「専門ゼミA・B」の単位を取得してからでないと、「卒業研究」の履修申請を行うことができない。
- 注4 専門基礎分野「人体の構造と機能」、「疾患の成り立ちと回復過程」、「健康と社会保障」の単位を取得してからでないと、専門分野への履修申請を行うことができない科目がある。
- 注5 専門分野の臨地実習で、救急処置演習A-I、蘇生処置演習、救助学演習、救急処置演習A-II、外傷救急処置演習の単位を取得してからでないと、救急処置演習A-III、救急車内活動演習、救急処置実習B-I、救急処置実習B-II、救急処置実習C-I、救急処置実習C-IIの履修申請を行うことができない。また、救急処置演習A-III、救急車内活動演習、救急処置実習B-I、救急処置実習C-Iの単位を取得してからでないと、救急処置演習A-IV、特定行為処置演習、救急処置演習A-V、救急処置実習B-II、救急処置実習C-IIの履修申請を行うことができない。

資格取得奨励金等一覧

(2024. 4. 1～)

奨学金の種類	資格分野	簿記・会計・ 税務・保険	経営・販売・ 労務	情 報	医療・福祉・ スポーツ	語 学	その他	支給額
S ランク		公認会計士 税理士						30万円
A ランク		公認会計士(短答のみ) 税理士(2科目以上) FP 1級 DCプランナー1級 日商簿記1級	中小企業診断士 社会保険労務士	エンベデッドシステムスペシャリスト 応用情報技術者		英検1級 TOEIC900点以上		20万円
B ランク		税理士(1科目)	日商販売士1級	統計検定1級		TOEIC820点以上	行政書士	10万円
C ランク		FP 2級 DCプランナー2級 日商簿記2級 通関士	宅地建物取引士 消費生活アドバイザー	CGクリエイター検定* Webデザイナー検定* CGエンジニア検定* 画像処理エンジニア検定* マルチメディア検定* (*印は全てエキスパート) 統計検定準1級 (以下はどれか1つのみ支給) 基本情報技術者 データサイエンティスト検定 (リテラシーレベル) 統計検定 (データサイエンスエキスパート)	福祉住環境コーディネーター1級 CSCS	英検準1級 TOEIC 730点以上 TOEFL(ITP) 550点以上 TOEFL(iBT) 80点以上 GTEC 1180点以上		5万円
D ランク				情報セキュリティマネジメント 統計検定 (データサイエンス発展) 統計検定2級	NSCA-CPT	英検2級 TOEIC 550点以上 TOEFL(ITP) 480点以上 TOEFL(iBT) 55点以上 GTEC 930点以上		3万円
E ランク			日商販売士2級	ITパスポート 医療情報技師 統計検定 (データサイエンス基礎) 統計検定3級	福祉住環境コーディネーター2級			1万円
推 奨		簿記検定3級, 日商販売士3級, MOS検定, 文章検定, ビジネス実務法務検定, 医療情報基礎知識検定, CGクリエイター*・Webデザイナー*・CGエンジニア*・画像処理エンジニア*・マルチメディア*検定(*印は全てベーシック), 色彩検定・カラーコーディネーター, 衛生管理者, 上記以外の各種語学検定, ホスピタリティマネジメント検定, 英検準2級・TOEIC450点以上, GTEC680点以上, FP3級, 日本語能力N1, 秘書検定2級, BLSプロバイダー(AHA), 統計検定4級						合格後検定料補助として一律5,000円支給

◎語学において、同一ランクで同一系列の資格を取得しても、奨励金の支給は適用されません。(例 英検2級を取ってTOEIC550点以上とするような場合) ◎GTECはオフィシャルスコアに限ります。

(9) 国際ビジネス学科における授業科目の履修

本学科の所属学生は、4年間で10単位を限度として国際ビジネス学科の授業科目を履修することができます。

国際ビジネス学科の開講科目の履修を希望する学生は、各学期のはじめに、講義担当教員の許可を得てから受講してください。ただし、国際ビジネス学科の学生の履修が優先されるので、履修人数に余裕がある場合のみ受講が許可されます。

国際ビジネス学科の授業を履修する場合は、同学科の学生と同じ扱いとなります。したがって、試験も同学科の設定する時間表で受け、レポートなども同学科に提出することになります。

なお、本制度により修得した単位は、スポーツマネジメント・スポーツトレーナーコースについては卒業要件表(23,24頁)の「教職科目・自由科目を除くすべての学科開講科目」、柔道整復師コースについては卒業要件数(25頁)の「各区分選択科目」、救急救命士コース

(13) 教育課程表

次に掲げる授業科目名は今年度のものです。

次年度以降、教育上の配慮、その他の理由により新たな授業科目が開講されることや、逆に未開講となる授業科目等の変更が生じる場合があります。その場合には、年度当初のガイダンスでそのことについての説明が行われます。

スポーツマネジメント・スポーツトレーナーコース共通

コースの必修科目

科目名	配当	単位
フレッシュャーズゼミA	1	2
フレッシュャーズゼミB	1	2
コンピュータリテラシA	1	2
コンピュータリテラシB	1	2
情報社会とコンピュータ	1	2
経済学基礎	1	2
経営学基礎	1	2
マーケティング基礎	1	2
スポーツ概論	1	2
必修英語A	1	2
必修英語B	1	2
教養ゼミ	2	2
トップマネジメント講話	2	2
※選択英語A	2	2
※選択英語B	2	2
※選択ドイツ語A	2	2
※選択ドイツ語B	2	2
※選択フランス語A	2	2
※選択フランス語B	2	2
※選択中国語A	2	2
※選択中国語B	2	2
キャリアデザイン	2	2
専門ゼミA	3	2
専門ゼミB	3	2
卒業研究	4	4

※選択語学は、同一言語で計4単位を修得すること。なお、母国語を選択することはできない。

また、同一言語で4単位の規定以外に選択語学で修得した単位は、教養選択科目の単位として読み替えることができる。

自由科目

インターンシップ	3	2
----------	---	---

コースの教養選択科目

科目名	配当	単位
哲学の基礎	1	2
哲学の展開	1	2
倫理学の基礎	1	2
倫理学の展開	1	2
日本史概説	1	2
文化交流史	1	2
日本文化概論	1	2
群馬の歴史と文化	1	2
群馬の産業	1	2
スポーツと文化	1	2
教育史	1	2
心理学概論	1	2
青年の心理	1	2
ビジネス法学入門	1	2
日本国憲法	1	2
社会科学の基礎A	1	2
社会科学の基礎B	1	2
社会学	1	2
環境問題の科学A	1	2
環境問題の科学B	1	2
日本列島の自然A	1	2
日本列島の自然B	1	2
世界の自然と地理A	1	2
世界の自然と地理B	1	2
統計学の基礎	1	2
生物学基礎	1	2
化学基礎	1	2
美術	1	2
映像文化論	1	2
健康とスポーツA	1	2
健康とスポーツB	1	2
スポーツの科学A	1	2
スポーツの科学B	1	2
海外研修	1	1
スポーツマネジメント研修	1	1
海外語学研修	1	2
国際交流プログラム	1	2
社会貢献実践	1	2
公務員試験対策ゼミA	1	2
公務員試験対策ゼミB	1	2
言語コミュニケーションA	1	2
言語コミュニケーションB	1	2
自然科学の基礎A	1	2
自然科学の基礎B	1	2

スポーツマネジメントコース

コースの選択必修科目

科目名	配当	単位
スポーツ社会学	1	2
簿記論	1	2
会計学基礎	1	2
自然に学ぶ技術論A	1	2
自然に学ぶ技術論B	1	2
ヘルスマネジメント	2	2
スポーツ行政論	2	2
スポーツマネジメント論	2	2
地域スポーツ論	2	2
スポーツイベント論	2	2
メディアスポーツ論	2	2
スポーツマーケティング	2	2
スポーツ施設管理論	2	2
スポーツ用品市場論	2	2
スポーツ産業論	2	2
経営戦略論	2	2
経営組織論	2	2
経営管理総論A	2	2
経営管理総論B	2	2

選択必修科目のうち、規定の20単位を超えて修得した科目の単位は、コースの専門選択科目の単位として認められる。

コースの専門選択科目

科目名	配当	単位
スポーツ実技（陸上競技）	1	1
スポーツ実技（器械運動）	1	1
スポーツ実技（体づくり運動）	1	1
スポーツ実技（サッカーA）	1	1
スポーツ実技（サッカーB）	1	1
スポーツ実技（バスケットボール）	1	1
スポーツ実技（テニス）	1	1
スポーツ実技（ソフトボール）	1	1
スポーツ実技（ダンス）	1	1
スポーツ実技（水泳）	1	1
スポーツ実技（スキー）	1	1
スポーツ実技（柔道）	1	1
スポーツ指導論	1	2
運動学	1	2
コーチング論	1	2
運動トレーニング論A	1	2
運動トレーニング論B	1	2
救急処置	1	2
テーピングの理論と実際	1	2
保健医療福祉論	1	2
グローバルコミュニケーション	1	2
グローバリゼーションの経済学	2	2
ベンチャービジネス論	2	2

科目名	配当	単位
サービス経済学	2	2
ミクロ経済学	2	2
マクロ経済学	2	2
地域経済論	2	2
経済政策論	2	2
経済原論	2	2
中小企業論A	2	2
中小企業論B	2	2
日本経済論	2	2
経済史	2	2
経営分析	2	2
管理会計論A	2	2
管理会計論B	2	2
学校保健論	2	2
公衆衛生学	2	2
健康心理学	2	2
発育発達論	2	2
応用ソフトウェア	2	2
コンピュータ概論	2	2
図形と画像の処理	2	2
プレゼンテーション	2	2
アルゴリズムA	2	2
データベース論	2	2
情報社会と情報倫理	2	2
Webアプリケーション	2	2
オペレーティングシステム	2	2
ネットワークシステム	2	2
プログラム言語C	2	2
プログラム言語D	2	2
基礎運動学	2	2
トレーニングの科学的基礎	2	2
スポーツ心理学	2	2
スポーツ医学	2	2
スポーツ栄養学	2	2
リハビリテーション論	2	2
運動生理学	2	2
救急法実習※	2	1
ストレングス&コンディショニング海外研修	2	2
健康・体力科学のデータサイエンス	2	2
ヒトの動作情報解析	2	2
スポーツデータサイエンス入門	2	2
スポーツパフォーマンス分析	2	2
指導実習Ⅰ※	3	1
指導実習Ⅱ※	3	1
ストレングス・コンディショニング特講※	4	2

※の科目はCSCS受験希望者のみ受講可。

スポーツトレーナーコース

コースの選択必修科目

科目名	配当	単位
人体構造学	1	2
救急処置	1	2
スポーツ指導論	1	2
コーチング論	1	2
生理・心理機能測定法	1	2
健康心理学	2	2
基礎運動学	2	2
トレーニングの科学的基礎	2	2
レジスタンストレーニングとコンディショニング	2	1
体力測定法	2	2
トレーニングプログラム論	2	2
トレーニング指導論	2	2
運動処方論	2	2
スポーツ栄養学	2	2
生理学	2	2
運動生理学	2	2
運動制御論	2	2
生体力学の基礎	2	2
知覚運動論	2	2
ヒトの動作情報解析	2	2
バイオメカニクス	2	2
スポーツ心理学	2	2

選択必修科目のうち、規定の20単位を超えて修得した科目の単位は、コースの専門選択科目の単位として認められる。

コースの専門選択科目

科目名	配当	単位
スポーツ実技（陸上競技）	1	1
スポーツ実技（器械運動）	1	1
スポーツ実技（体づくり運動）	1	1
スポーツ実技（サッカーA）	1	1
スポーツ実技（サッカーB）	1	1
スポーツ実技（バスケットボール）	1	1
スポーツ実技（テニス）	1	1
スポーツ実技（ソフトボール）	1	1
スポーツ実技（ダンス）	1	1
スポーツ実技（水泳）	1	1
スポーツ実技（スキー）	1	1
スポーツ実技（柔道）	1	1
運動トレーニング論A	1	2
運動トレーニング論B	1	2
テーピングの理論と実際	1	2
ストレッチ・スポーツマッサージの理論と実際	1	2
運動学	1	2

科目名	配当	単位
スポーツ社会学	1	2
簿記論	1	2
会計学基礎	1	2
スポーツトレーニング論Ⅰ	1	2
スポーツトレーニング論Ⅱ	1	2
保健医療福祉論	1	2
グローバルコミュニケーション	1	2
スポーツ医学	2	2
リハビリテーション論	2	2
ヘルスマネジメント	2	2
生理心理学	2	2
公衆衛生学	2	2
発育発達論	2	2
学校保健論	2	2
視覚認知論	2	2
応用ソフトウェア	2	2
Webアプリケーション	2	2
オペレーティングシステム	2	2
ネットワークシステム	2	2
プレゼンテーション	2	2
アルゴリズムA	2	2
データベース論	2	2
情報社会と情報倫理	2	2
コンピュータ概論	2	2
図形と画像の処理	2	2
プログラム言語C	2	2
プログラム言語D	2	2
スポーツマネジメント論	2	2
地域スポーツ論	2	2
スポーツイベント論	2	2
メディアスポーツ論	2	2
スポーツ産業論	2	2
スポーツマーケティング	2	2
スポーツ用品市場論	2	2
経済原論	2	2
グローバル化の経済学	2	2
経営分析	2	2
管理会計論A	2	2
管理会計論B	2	2
救急法実習※	2	1
スポーツバイオメカニクス測定法	2	2
ストレングス&コンディショニング海外研修	2	2
健康・体力科学のデータサイエンス	2	2
スポーツサイエンス入門	2	2
スポーツパフォーマンス分析	2	2
指導実習Ⅰ※	3	1
指導実習Ⅱ※	3	1
ストレングス・コンディショニング特講※	4	2

※の科目はCSCS受験希望者のみ受講可。

柔道整復師コース

コースの必修科目

科目名	配当	単位
フレッシュャーズゼミA	1	2
フレッシュャーズゼミB	1	2
コンピュータリテラシA	1	2
必修英語A	1	2
経営学基礎	1	2
スポーツ概論	1	2
教養ゼミ	2	2
トップマネジメント講話	2	2
専門ゼミA	3	2
専門ゼミB	3	2
卒業研究	4	4

コースの専門基礎科目

科目名	配当	単位
(人体の構造と機能)		
人体構造学Ⅰ※	1	2
人体構造学Ⅱ※	1	2
人体機能学Ⅰ※	1	2
人体機能学Ⅱ※	1	2
運動学Ⅰ	1	2
生理・心理機能測定法	1	2
人体構造学実習※	2	1
人体機能学実習※	2	1
発育発達論※	2	2
スポーツ医学※	2	2
レジスタンストレーニングとコンディショニング	2	1
スポーツ栄養学	2	2
運動学Ⅱ※	4	2
(疾病と傷害)		
整形外科学Ⅰ※	2	2
整形外科学Ⅱ※	2	2
病理学概論※	3	2
内科学Ⅰ※	3	2
内科学Ⅱ※	3	2
リハビリテーション医学※	3	2
外科学概論※	3	2
(保健医療福祉と柔道整復の理念)		
保健医療福祉論※	1	2
柔道整復の理念と歴史※	1	2
柔道実技※	1	1
医療倫理学※	1	2
救急処置	1	2
公衆衛生学Ⅰ	2	2
救急法実習	2	1
公衆衛生学Ⅱ※	2	2
学校保健論	2	2
関係法規※	4	2

(柔道整復術の適応)

運動器疾患と柔道整復術※	3	2
--------------	---	---

コースの専門選択科目

科目名	配当	単位
(基礎柔道整復学)		
柔道整復学総論Ⅰ※	1	2
スポーツトレーニング論Ⅰ	1	2
柔道整復学総論Ⅱ※	1	2
スポーツトレーニング論Ⅱ	1	2
スポーツリハビリテーション概論※	2	2
成長期スポーツ傷害※	3	2
スポーツ傷害と画像診断※	3	2

(臨床柔道整復学)

臨床柔道整復学Ⅰ※	1	2
臨床柔道整復学Ⅱ※	2	2
臨床柔道整復学Ⅲ※	2	2
臨床柔道整復学Ⅳ※	3	2
臨床柔道整復学Ⅴ※	3	2
スポーツ傷害Ⅰ※	3	2
スポーツ傷害Ⅱ※	3	2
柔道整復演習Ⅰ※	3	2
柔道整復演習Ⅱ※	3	2
測定評価学※	4	2

(柔道整復実技)

柔道整復実技Ⅰ(包帯)※	1	1
柔道整復実技Ⅱ(上肢①)※	2	1
柔道整復実技Ⅲ(上肢②)※	2	1
外傷予防トレーニング指導実習Ⅰ※	2	1
外傷予防トレーニング指導実習Ⅱ※	2	1
柔道整復実技Ⅳ(下肢①)※	3	1
柔道整復実技Ⅴ(下肢②)※	3	1
スポーツリハビリテーションⅠ※	3	1
スポーツリハビリテーションⅡ※	3	1
柔道整復演習Ⅲ※	4	2
柔道整復演習Ⅳ※	4	2
トレーニング演習Ⅰ※	4	2
トレーニング演習Ⅱ※	4	2
測定評価学実習※	4	1

(臨床実習)

臨床実習Ⅰ※	3	2
臨床実習Ⅱ※	3	2

※の科目は必修とする。

教養選択科目

科 目 名	配当	単位
テーピングの理論と実際	1	2
ストレッチ・スポーツマッサージの理論と実際	1	2
スポーツ実技（陸上競技）	1	1
スポーツ実技（器械運動）	1	1
スポーツ実技（体づくり運動）	1	1
スポーツ実技（サッカー A）	1	1
スポーツ実技（サッカー B）	1	1
スポーツ実技（バスケットボール）	1	1
スポーツ実技（テニス）	1	1
スポーツ実技（ソフトボール）	1	1
スポーツ実技（ダンス）	1	1
スポーツ実技（水泳）	1	1
スポーツ実技（スキー）	1	1
運動トレーニング論A	1	2
運動トレーニング論B	1	2
スポーツ指導論	1	2
スポーツ社会学	1	2
コーチング論	1	2
経済学基礎	1	2
マーケティング基礎	1	2
情報社会とコンピュータ	1	2
哲学の基礎	1	2
哲学の展開	1	2
倫理学の基礎	1	2
倫理学の展開	1	2
日本史概説	1	2
文化交流史	1	2
日本文化概論	1	2
群馬の歴史と文化	1	2
群馬の産業	1	2
スポーツと文化	1	2
心理学概論	1	2
青年の心理	1	2
ビジネス法学入門	1	2
日本国憲法	1	2
環境問題の科学A	1	2
環境問題の科学B	1	2
日本列島の自然A	1	2
日本列島の自然B	1	2
世界の自然と地理A	1	2
世界の自然と地理B	1	2
統計学の基礎	1	2
生物学基礎	1	2
化学基礎	1	2
美術	1	2
健康とスポーツA	1	2
健康とスポーツB	1	2

科 目 名	配当	単位
スポーツの科学A	1	2
スポーツの科学B	1	2
海外研修	1	1
スポーツマネジメント研修	1	1
国際交流プログラム	1	2
ストレングス&コンディショニング海外研修	2	2
社会貢献実践	1	2
公務員試験対策ゼミA	1	2
公務員試験対策ゼミB	1	2
言語コミュニケーションA	1	2
言語コミュニケーションB	1	2
自然科学の基礎A	1	2
自然科学の基礎B	1	2
生体力学の基礎	2	2
トレーニングの科学的基礎	2	2
スポーツマネジメント論	2	2
地域スポーツ論	2	2
スポーツ心理学	2	2
生理学	2	2
運動生理学	2	2
バイオメカニクス	2	2
知覚運動論	2	2
動作解析学	2	2
運動制御論	2	2
基礎運動学	2	2
スポーツ産業論	2	2
リハビリテーション論	2	2
運動処方論	2	2
選択英語A	2	2
選択英語B	2	2
選択中国語A	2	2
選択中国語B	2	2
選択ドイツ語A	2	2
選択ドイツ語B	2	2
選択フランス語A	2	2
選択フランス語B	2	2
ストレングス・コンディショニング特講	4	2

自由科目

インターンシップ	3	2
----------	---	---

* コースの必修科目、コースの専門基礎科目、コースの専門選択科目、教養選択科目を除くすべての学科開講科目は自由科目とする。

救急救命士コース

コースの必修科目

科目名	配当	単位
フレッシュャーズゼミA	1	2
フレッシュャーズゼミB	1	2
教養ゼミ	2	2
トップマネジメント講話	2	2
専門ゼミA	3	2
専門ゼミB	3	2
卒業研究	4	4
消防職員採用試験対策講座A	3	2
消防職員採用試験対策講座B	3	2
経営学基礎	1	2
スポーツ概論	1	2
コンピュータリテラシA	1	2
必修英語A	1	2

コースの専門基礎分野科目

科目名	配当	単位
(人体の構造と機能)		
解剖学※	1	2
生理・心理機能測定法	1	2
運動生理学※	1	2
スポーツ栄養学※	1	2
生体力学の基礎	2	2
バイオメカニクス	2	2
スポーツバイオメカニクス測定法	2	2
知覚運動論	2	2
動作解析学	2	2
運動制御論	2	2
生化学・微生物学※	2	2
(疾患の成り立ちと回復の過程)		
病理学概論※	1	2
リハビリテーション論	2	2
運動処方論	2	2
テーピングの理論と実際	1	2
ストレッチ・スポーツマッサージの理論と実際	1	2
スポーツ医学※	2	2
ヘルスマネジメント※	2	2
(健康と社会保障)		
公衆衛生学※	2	2
学校保健論	2	2
保健医療福祉論	2	2
医療倫理学	1	2
関係法規	4	2
救急医療行政※	1	2

コースの専門分野科目

科目名	配当	単位
(救急医学概論)		
医学概論※	1	2
救急医学※	3	2
薬理学※	4	2
(救急症候・病態生理学)		
外科学概論※	2	2
内科学Ⅰ※	2	2
内科学Ⅱ※	2	2
予防医学※	3	2
(疾病救急医学)		
脳神経外科学・眼科学・耳鼻咽喉科学・口腔外科学※	2	2
産婦人科学・精神医学※	2	2
小児科学※	2	2
整形外科学Ⅰ※	2	2
整形外科学Ⅱ※	2	2
(外傷救急医学)		
外傷学総論※	3	2
外傷学各論※	3	2
(環境障害・急性中毒学)		
災害医学※	4	2
(臨地実習)		
救急処置演習A-Ⅰ※	1	2
蘇生処置演習※	1	2
救助学演習※	1	2
救急処置演習A-Ⅱ※	2	2
外傷救急処置演習※	2	2
救急処置演習A-Ⅲ※	3	2
救急車内活動演習※	3	2
救急処置演習A-Ⅳ※	4	2
特定行為処置演習※	4	2
救急処置演習A-Ⅴ※	4	2
救急処置実習B-Ⅰ※	3	1
救急処置実習B-Ⅱ※	4	1
救急処置実習C-Ⅰ※	3	1
救急処置実習C-Ⅱ※	4	1
災害マネジメント演習※	1	2
救助・防災演習※	1	2

※の科目は必修とする。

教養選択科目

科 目 名	配当	単位
経済学基礎	1	2
マーケティング基礎	1	2
情報社会とコンピュータ	1	2
生物学基礎	1	2
化学基礎	1	2
トレーニングの科学的基礎	2	2
選択英語A	2	2
選択英語B	2	2
選択中国語A	2	2
選択中国語B	2	2
スポーツ実技（体づくり運動）	1	1
スポーツ実技（器械運動）	1	1
スポーツ実技（陸上競技）	1	1
スポーツ実技（水泳）	1	1
スポーツ実技（水難救助）	1	1
スポーツ実技（河川救助）	2	1
スポーツ実技（バスケットボール）	1	1
スポーツ実技（サッカー）◎	1	1
スポーツ実技（テニス）	1	1
スポーツ実技（ダンス）	1	1
スポーツ実技（スキー）	1	1
スポーツ実技（山岳救助）	2	1
スポーツ実技（柔道）	1	1
スポーツ実技（ソフトボール）	1	1
スポーツマネジメント論	2	2
スポーツ心理学	2	2
スポーツ産業論	2	2
スポーツ施設管理論	2	2
スポーツ行政論	2	2
スポーツ社会学	1	2
地域スポーツ論	2	2
運動トレーニング論A	1	2
運動トレーニング論B	1	2
コーチング論	1	2
スポーツ指導論	1	2
ストレングス・コンディショニング特講	4	2
環境問題の科学A	1	2
環境問題の科学B	1	2
健康とスポーツA	1	2
健康とスポーツB	1	2
美術	1	2
統計学の基礎	1	2
スポーツの科学A	1	2
スポーツの科学B	1	2
日本史概説	1	2
文化交流史	1	2
日本文化概論	1	2

科 目 名	配当	単位
群馬の歴史と文化	1	2
スポーツと文化	1	2
群馬の産業	1	2
心理学概論	1	2
青年の心理	1	2
ビジネス法学入門	1	2
日本国憲法	1	2
海外研修	1	1
スポーツマネジメント研修	1	1
国際交流プログラム	1	2
社会貢献実践	1	2
公務員試験対策ゼミA	1	2
公務員試験対策ゼミB	1	2
運動学	1	2
発育発達論	2	2
レジスタンストレーニングとコンディショニング	2	1
キャリアデザイン	3	2
ミクロ経済学	2	2
マクロ経済学	2	2
医療情報学	1	2
医療保険論	1	2
言語コミュニケーションA	1	2
言語コミュニケーションB	1	2
自然科学の基礎A	1	2
自然科学の基礎B	1	2

◎「スポーツ実技（サッカー）」は他コースの「スポーツ実技（サッカーA）」とする。

自由科目

科 目 名	配当	単位
インターンシップ	2	2

*コースの必修科目、コースの専門基礎分野科目、コースの専門分野科目、教養選択科目を除くすべての学科開講科目は自由科目とする。

学校法人 学 文 館
上 武 大 学
データサイエンスセンター規程

(趣旨)

第1条 この規程は、上武大学データサイエンスセンター（以下センターという。）の組織及び運営等について、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、以下に掲げる事業を推進・支援する。

- 一 AI戦略2019を受け、本学における初級レベルの数理・データサイエンス・AI教育とその点検・評価に係る事項
- 二 前号に必要となる施設設備、教育機器備品類などの検討
- 三 その他本学の数理・データサイエンス・AI教育に関連する事項等

(センター長)

第3条 センターにセンター長を置く。

- 2 センター長は本学の専任教員のうちから、常任理事会の議を経て理事長が任命する。
- 3 センター長はセンターの業務を統括する。
- 4 センター長の任期は1年とする。ただし再任を妨げない。

(センターの組織)

第4条 センター長のほかセンターの構成員については常任理事会の議を経て理事長が任命する。

(会議)

第5条 第2条の目的を達成するため、センターにおいて運営会議（以下「会議」という。）を開催する。

- 2 会議はセンター長が議長となり召集する。

(報告)

第6条 センター長は会議の結果を事務局長に報告する。

(細則)

第7条 この規程に定めるもののほか、センターの運営のため必要な細則は別に定める。

附 則

この規程は令和5年4月1日から施行する。

学校法人 学文館
上武大学
内部質保証委員会規程

(目的)

第1条 この規程は上武大学内部質保証会議規程第6条により設置する、上武大学内部質保証委員会(以下「委員会」という。)の組織、運営について必要な事項を定める。

(委員会の職能)

第2条 委員会は次の各号に関する原案等を作成し、内部質保証会議に報告する。

- 一. 内部質保証(IRを含む)に関する方針および手続
- 二. 自己点検・評価の計画
- 三. 全学的な観点による自己点検・評価およびその結果に基づく改善・向上の支援
- 四. 自己点検・評価報告書の作成と結果の公表
- 五. 外部評価に関する対応等
- 六. その他委員会の目的を達成するために必要な事項

(構成員の任命)

第3条 委員長、副委員長を含む委員会の構成員は、常任理事会の議を経て理事長が任命する。

(委員長等)

第4条 委員長は委員会を招集し議長となる。

- 2 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代行する。
- 3 委員会は、構成員の過半数の出席によって成立し、その議決は出席委員の過半数をもって決する。可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 4 委員会は、必要があるときは委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

(任期)

第5条 委員会の構成員の任期は原則として1年とする。ただし、補充された委員等の任期は前任者の残任期間とする。

- 2 委員会の構成員の再任は妨げない。

(所掌)

第6条 委員会の事務は大学本部事務局が所掌する。

(規程の改廃)

第7条 この規程の改廃は、原則として内部質保証会議の議を経て、常任理事会で決定する。

附 則 この規程は令和4年12月1日から施行する。

学校法人 学 文 館
上 武 大 学
データサイエンスセンター規程

(趣旨)

第1条 この規程は、上武大学データサイエンスセンター（以下センターという。）の組織及び運営等について、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、以下に掲げる事業を推進・支援する。

- 一 AI戦略2019を受け、本学における初級レベルの数理・データサイエンス・AI教育とその点検・評価に係る事項
- 二 前号に必要となる施設設備、教育機器備品類などの検討
- 三 その他本学の数理・データサイエンス・AI教育に関連する事項等

(センター長)

第3条 センターにセンター長を置く。

- 2 センター長は本学の専任教員のうちから、常任理事会の議を経て理事長が任命する。
- 3 センター長はセンターの業務を統括する。
- 4 センター長の任期は1年とする。ただし再任を妨げない。

(センターの組織)

第4条 センター長のほかセンターの構成員については常任理事会の議を経て理事長が任命する。

(会議)

第5条 第2条の目的を達成するため、センターにおいて運営会議（以下「会議」という。）を開催する。

- 2 会議はセンター長が議長となり召集する。

(報告)

第6条 センター長は会議の結果を事務局長に報告する。

(細則)

第7条 この規程に定めるもののほか、センターの運営のため必要な細則は別に定める。

附 則

この規程は令和5年4月1日から施行する。

大学等名	上武大学（ビジネス情報学部）
教育プログラム名	上武大学応用基礎プログラム（ビジネス情報学部）

申請レベル	応用基礎レベル（学部・学科等単位）
申請年度	令和 7年度

取組概要 ○ 応用基礎プログラム 2025年度申請予定

【プログラムの目的】

- ・数理・データサイエンス・AIを自らの専門分野へ活用し、課題を解決するための実践的能力を備えた、データ駆動型社会で活躍できる人材の育成

【身に付けられる能力】

- ・データから意味を抽出できる
- ・抽出した意味を現場に還元できる
- ・AIの活用について理解し、課題解決につなげることができる
- ・自らの専門分野にデータサイエンスを応用できる

【開講されている科目の構成】

- ビジネス情報学部
- 「情報社会とコンピュータ」 (2単位)
- 「プログラム言語C」 (2単位)
- 「プログラム言語D」 (2単位)

【修了要件】

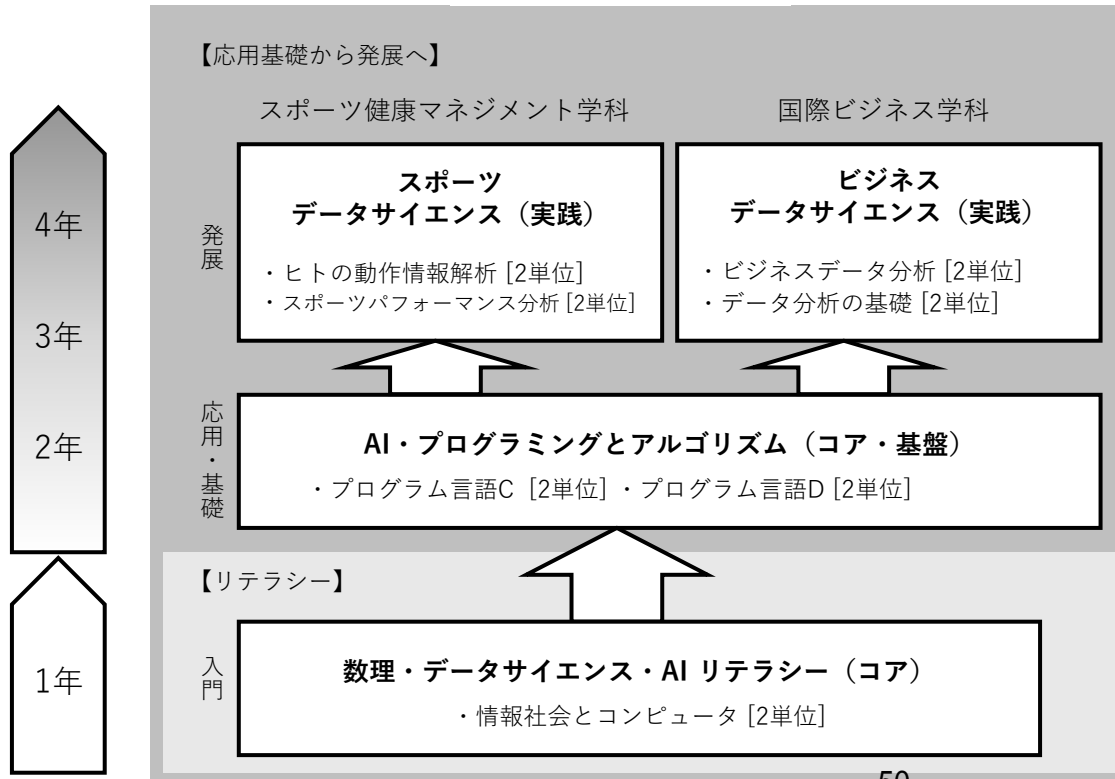
- ビジネス情報学部
- 「情報社会とコンピュータ」
- 「プログラム言語C」
- 「プログラム言語D」

の修得

【実施体制】

- プログラムを改善・進化させるための体制
- ・上武大学データサイエンスセンター
- 自己点検・評価を行う体制
- ・内部質保証委員会
- ・上武大学データサイエンスセンター

ビジネス情報学部



看護学部

